

テクノツーリズム茨城（大洗）の参加報告

主催: 社団法人 日本技術士会 青年技術士交流実行委員会(青年委員会)

共催: JAEA 技術士会

後援: 社団法人 日本技術士会 原子力・放射線部会

日時: 平成22年3月22日(月: 祝日) ①テクノツーリズム 10:30～15:00 ②たらし及びヘガシ現地調査 15:00～16:30

場所: ①テクノツーリズム : JAEA 大洗研究開発センター「高速実験炉「常陽」、交流棟

②たらし及びヘガシ現地調査 : 大洗町「木の実」

参加者: 31 名

内訳(重複なし): 技術士19名、技術士補5名、その家族3名、たらし及びヘガシ現地調査協力4名

内訳(重複有り): 青年委員会 18 名、茨城県技術士会4名、原子力・放射線部会9名、

JAEA技術士会9名、アイアンキッズ支援隊5名 (たらし及びヘガシ現地調査協力)

内容等:

日本技術士会青年技術士交流実行委員会主催、JAEA(日本原子力研究開発機構)技術士会共催で、茨城県内のJAEA研究拠点の一つである大洗研究開発センターにてテクノツーリズムが開催されました。

当日はまず、同センターの研究施設(高速実験炉「常陽」(写真1))を見学し、そこでは日本の高速増殖炉開発の現状の紹介がありました。その中で、原子力発電所の燃料であるウランも、今動いている原子力発電所と同じ使い方をすると、資源的には石油同様にあと数十年程度で枯渇してしまうものであること、そしてそれを回避するために、高速増殖炉の研究開発が行われているとの説明がありました。

また、大洗研究開発センターの高温ガス炉での、原子炉を使った水素製造を目指した研究開発の現状についてご報告頂きました。原子力発電の安全性、エネルギー源としての魅力、なぜ原子力が必要なのか等を織り交ぜ、更に原子力発電所のようにウランから電気を作るだけでなく、水素を作り自動車や家庭の燃料に利用できれば、二酸化炭素の排出量を大きく削減できることが紹介されました。

加えて、県内の他の JAEA の拠点(東海・那珂)での研究開発の紹介として、高エネルギー加速器研究機構とJAEAの共同プロジェクトで実施されている世界最大級の陽子加速器「J-PARC」における研究開発と国際協力で実施されている核融合研究開発(イーター計画)について説明がありました。

限られた時間ではありますが、持続可能な発展のためのエネルギー源を、我が国としてどのように確保していくのか、そしてそのためにどのような研究開発が進められているのかを、参加者の皆様に身近に感じて頂けたら、当部会、JAEA技術士会共々、微力ながらお役に立てたのではないかと考える次第です。(写真2)

また散会の後、有志により大洗に伝来する食べ物「たらし」とそれを食べるための道具「ヘガシ」の紹介と現地調査が行われたことを申し添えます。(写真3)

最後になりましたが、企画段階からご尽力頂いたJAEA技術士会の皆様、休日にも関わらず対応頂いたJAEA職員の皆様、及びイベントに参加された技術士会員の皆様のご協力とご努力に感謝致します。



写真1.1 高速実験炉「常陽」の見学記念



写真1.2 高速実験炉「常陽」概況説明及び
高速増殖炉開発の現状紹介



写真2.1 高温ガス炉の研究開発の現状報告及び
原子力概況説明



写真2.2 大洗研究開発センター交流棟前の参加者



写真3.1 大洗伝来「たらし」焼き及び「ヘガシ」の紹介



写真3. 2「たらし」焼き及び「ヘガシ」の現地調査